

発熱と発疹、HIV 感染症？第 4 世代検査法で

今年は急に寒くなり風邪症状の患者さんが例年より多数来院されており、インフルエンザ検査が陽性になるかたもおられます。そうすると多忙な日常診療ではインフルエンザのことが中心になってきますが、こういう時に“Availability Bias”（最近遭遇した類似症例と同じ疾患を考えてしまう。インフルエンザシーズンは、熱で来た患者さんが皆インフルエンザに見えてしまう）が起こりやすくなります¹⁾。インフルエンザ患者さんに混じって“Zebra”（珍しい病気という意味）*が来院されると誤診につながります。麻疹²⁾、急性 HIV 感染症³⁾などがその代表です。私たちプライマリケア医が急性 HIV 感染症に遭遇することは一生ない可能性が高いとは思いますが、もし見逃した場合、患者さんのうける不利益や感染蔓延による社会の不利益は計り知れないものがあります。

近年、抗 HIV 治療が飛躍的に進歩し、HIV 感染者の予後や死亡率が大きく改善されるとともに、HIV 治療が HIV の感染予防にも貢献しうることがわかってきました。HIV に感染している人が感染の事実をまず知り、抗 HIV 治療を適切な時期に受けることがますます重要となってきており、このため、感染リスクのある人々になるべく多くの HIV 検査を提供することが重要になっており、それはプライマリケア医の役目です。

急性 HIV 感染症を疑うヒントはかなり難しいと思われませんが、発熱、リンパ節腫脹、皮疹、筋肉痛、関節痛、体重減少、下痢、腹痛などの症状がなかなか治らずに、なにか心に引っかかるものがあれば一応疑ってみると専門医は記載しています⁴⁾。もちろん AIDS 指標疾患をみたら HIV 感染症を念頭におくべきです。

HIV 検査を行う場合、本人の同意が必要です。書類は必要ありませんが、診療録に記載しないといけません。保険適用は日和見感染症や性感染症が認められる場合と、その既往がある場合にも適用されます。

患者さんへの検査の説明には伝えるべき事柄があります。予習しておく必要があるでしょう。

- ▶HIV スクリーニング検査をすること
- ▶検査に関連する秘密は厳守される。家族にも同様
- ▶スクリーニングには偽陽性があり、陽性の場合は確認検査をすること
- ▶スクリーニングには偽陰性もあること
- ▶HIV 感染症の治療は進歩しており長期生存が可能なこと
- ▶結果が陽性の場合専門施設に紹介すること

（文献 5）より参照）

HIV 抗体のスクリーニング検査として当初より使われていた酵素免疫反応法（enzyme immunoassay, EIA）が、近年著しい進歩を遂げ、現在では HIV-1/2 抗体と HIV-1 抗原の同時検出が可能な第 4 世代の EIA が推奨されています⁶⁾。この検査はかなり感度が改善され、感染後のウィンドウピリオドは人によりばらつきがありますが約 20 日に短縮していると報告されています⁶⁾。そのかわり偽陽性は当然出現し、例えば妊婦健診の場合は陽性にな

ったひとの9割以上が偽陽性だったそうです⁵⁾。

スクリーニング検査陽性の場合、ウエスタンブロット法による確認検査を行います。スクリーニング陽性でウエスタンブロット陰性の場合、偽陽性と考えがちですが感染後1ヶ月の場合、このようなHIV感染者が存在するようで、この場合、HIV-1 PCRを検査すると陽性が確認できるそうですが⁷⁾、プライマリケア医としては荷が重すぎるので、スクリーニング陽性の時点で専門医に紹介したほうが良いかもしれません。

その際に注意することは、HIV感染症であると断定しないこと、またはたぶん偽陽性である、と結果を軽すぎた説明をしないことだそうです⁷⁾。紹介状には①どの検査法で陽性になったか②なぜHIV検査をおこなったか③陽性になったことを知る家族はだれか④患者にどのように説明しているか⑤一般的な既往例、社会歴の記載、があると良いそうです⁷⁾。

急性HIV感染症は専門医ではなく必ずプライマリケア医を受診するものと肝に銘じておく必要があります。

*** When you hear hoofbeats, think horses, not zebras. :** ひづめの音が聞こえるときには、シマウマではなく馬を思い浮かべなさい。「推理においては、当たり前の結論から考えるべきだ」という意味の警句。特に医学において、「症状の原因としてむやみに珍しい病気を想定せず、ありふれた病気から疑うべきだ」という意味で使われます。**zebra** だけで珍しい病気という意味で使われます。

平成28年12月1日

参考文献

1) 明日から役立つ臨床推論！

<https://career.m3.com/kenshunavi/know-how/event/clinical-reasoning001-002>

2) 麻疹が流行しています。Index case を診断できるか？

<http://www.nobuokakai.ecnet.jp/nakagawa129.pdf>

3) 急性扁桃炎—急性HIV感染症は鑑別できる？—

<http://www.nobuokakai.ecnet.jp/nakagawa65.pdf>

4) 松尾裕央：一般外来でHIV感染症を疑うヒント．日本医事新報 2016；4831；26－35．

5) 塚田 訓久：HIV感染症の検査．日本医事新報 2016；4831；36－41．

6) 加藤 真吾ら：HIV検査の新たな展開．日本エイズ学会誌 2011；13；132－136．

7) 大路 剛：HIV感染症の告知と専門医療機関への紹介．日本医事新報 2016；4831；42